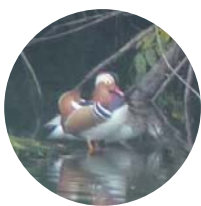


ハイツカ湖地域ビジョン

まあ、みよーきんさいよ。
楽しいところにするけ〜ね!

笑湖 (エコ) ハイツカ

～人と自然が元気で笑顔があふれる湖域づくり～



ハイツカの
ひまから
こまから
こつひこう

ハイツカ湖地域ビジョン

笑湖(エコ)ハイツカ

人と自然が元気で笑顔があふれる湖域づくり



“笑湖(エコ)ハイツカ”

住む人・訪れる人が共に笑顔になって、
自然があふれるハイツカ湖地域(湖域)になることを目指します
いまこそ、逆境を超え、次世代に誇れるふるさとを創生する・・・。
ここに私たちの行動計画を記します。

平成21年3月 ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会



目 次

1. はじめに	2
(1)ハイヅカ湖地域ビジョンとは？	
(2)ハイヅカ湖地域ビジョン策定の経緯	
2. ハイヅカ湖地域の現状	4
(1)豊かな自然環境	
(2)時代を先取りするハイヅカ湖地域	
(3)ハイヅカ湖地域ビジョン策定の背景・目的	
3. ハイヅカ湖地域ビジョンの基本方針(案)	5
4. ハイヅカ湖地域ビジョンの推進体制	6
5. ハイヅカ湖地域ビジョンの実施内容(案)	7
(1)実施方針(案)	7
(2)取り組みメニュー	8
(3)リーディングプロジェクト	10
(4)重点的な取り組み	17
(4)実施スケジュール	21
(5)レビュー計画	22
参考資料:ハイヅカ湖地域ビジョンづくりのための提言(案)	24

1. はじめに

(1) ハイヅカ湖地域ビジョンとは？

中国地方のほぼ真ん中に位置するハイヅカ湖地域は、豊かな自然環境のもと人々が営々と積み上げてきた暮らしにより歴史、民俗、文化、人材に恵まれた地域が形成されてきました。

全国的に地域格差、中山間地域の過疎化・少子高齢化が進展する一方で、心の豊かさ、心の充実を実感できるいきいきとした暮らしなどを求めて地域への期待も高まっています。

そんな中、灰塚ダム建設により洪水や濁水に対する安全・安心が高まるとともに、広大な水面を有するハイヅカ湖が生まれました。今、ハイヅカ湖地域の生き活きとした未来に向けて、将来へのロマンを描き、柔軟で幅広い力の集結が必要となっています。

ハイヅカ湖地域ビジョンは、地域の重要な資源の一つである灰塚ダム・ハイヅカ湖を中心に「灰塚ダムによって生まれた資源を活かした「笑湖(エコ)ハイヅカ～人と自然が元気で笑顔があふれる湖域づくり～」を目指し、ハイヅカ湖地域の自立的・持続的な活性化を図り、今後の中山間地域をリードすべく、ハイヅカ湖地域の住民、行政、広域的な有志等、多様な人々がそれぞれの機能を活かして参画し、自主・自律したパートナーとして相互に連携・協力しながら、実行・実現を図ることを目的としています。



上空から見たハイヅカ湖(H18. 4)

(2)ハイヅカ湖地域ビジョン第1版の作成の経緯

平成19年11月～平成21年3月までの約1年半に渡って、ハイヅカ湖周辺の住民のみなさん、取り組みに関心のある方々、学識者、三次市・庄原市、ダム管理者など、多様な主体の参画のもと、ハイヅカ湖地域ビジョン準備会・委員会・分科会が開催されました。

さまざまな意見やアイデアを出し合い、協議を重ね、また、リーディング（試行的・先行的）プロジェクトを企画・実行する過程を経て、ハイヅカ湖地域の地域活性化に向けた中長期的な方向性や取り組みを段階的に決定しました。

年月日	事柄	概要
H19.11.29	灰塚ダム水源地域ビジョン準備会	灰塚ダム水源地域ビジョンの進め方について、地域有志の方々による意見交換を実施。
H19.12.19	ハイヅカ湖地域ビジョン推進委員会①	「ハイヅカ湖地域ビジョン」の名称及び趣意書を決定。また分科会のテーマについても承認。
H20.1.28,31	ハイヅカ湖地域ビジョン分科会①	6つのテーマによる分科会を開催。地域の魅力や課題、将来像等について意見交換を実施。
H20.2.13	ハイヅカ湖地域ビジョン分科会②	合同で分科会を開催。第1回分科会を踏まえ、分科会の目標や取り組みについて意見交換を実施。
H20.2.29	ハイヅカ湖地域ビジョン推進委員会②	分科会での意見交換を基本として基本方針案について協議。事務局にて修正後、公表することを承認。
H20.3	基本方針(試行版)公表	ハイヅカ湖地域ビジョン基本方針(試行版)を公表。パブリックコメントを実施。
H20.6.27	ハイヅカ湖地域ビジョン推進委員会③	パブリックコメントやH20年度の取り組み及びスケジュールについて協議。
H20.7.8	ハイヅカ湖地域ビジョン分科会③	合同で分科会を開催。各分科会のテーマに沿ってH20年度のLPの企画について意見交換を実施。
H20.11.25	ハイヅカ湖地域ビジョン分科会④	合同で分科会を開催。H20年度取り組みの振り返り、各分科会の活動メニュー等について意見交換を実施。
H21.2.10	ハイヅカ湖地域ビジョン分科会⑤	これまでの取り組みの振り返り、ビジョン第1版(原案)についての意見交換を実施。
H21.2.23	ハイヅカ湖地域ビジョン推進委員会④	分科会での意見交換を基本としてビジョン第1版について協議。事務局にて修正後、公表することを承認。
H21.3	ハイヅカ湖地域ビジョン公表	ハイヅカ湖地域ビジョンを公表。今後、パブリックコメントを予定。



第1回分科会



第2回分科会



第3回分科会

2. ハイヅカ湖地域の現状

(1) 豊かな自然環境

広島県の北東部に位置するハイヅカ湖地域は、カタクリやセツブンソウなどの山野草の宝庫であり、動物では、近年個体数が激減しているダルマガエルやブッポウソウなども含め、地元住民の方による保護・生育活動も盛んに行われています。また、人工湿地としては日本最大規模（約 70ha）である知和ウェットランドも新たな水辺環境を創出し、平成 17 年に国特別天然記念物のコウノトリが飛来したことで有名になりました。

(2) 時代を先取りするハイヅカ湖地域

三次市の人口は最近 25 年間で約 4,500 人（平成 17 年現在：59,314 人）、庄原市は 10,000 人以上の減少（平成 17 年現在：43,149 人）傾向をたどっています。

また、平成 17 年の広島県及び全国の年齢階層別人口割合をみると、老年人口の占める割合はともに 20%強であるのに対し、三次市は約 30%、庄原市は約 36%に上ります。

ハイヅカ湖地域は、人口減少の加速化が全国よりも 10~15 年早く進んでいると言われています。このような状況下で、地域の方々が主体となって、ハイヅカ湖を活用したウォーキング大会など、活性化に向けた行事・催しなどが取り組まれています。

（※すべて合併後の新市で換算）

(3) 恵まれた立地条件と周辺施設

三次市、庄原市周辺では古くから人々の暮らしが営まれており、多くの遺跡や古墳が現存します。また、花園、果物農園のほか、備北丘陵公園、奥田元宋・小由女美術館などの観光資源があります。

さらに、ハイヅカ湖地域には「ハイヅカ湖畔の森」や「田総の里スポーツ公園」をはじめとする様々な施設があり、平成 19 年度の利用者数は約 20,000 人で、昨年度に比べやや増加傾向にあります。

(4) ハイヅカ湖地域の暮らし

ハイヅカ湖地域の各自治会では、各地の特色に応じて、カタクリ祭り、節分草祭り、ホタル祭り、夏祭り、秋祭りやパークゴルフ・グラウンドゴルフ大会など、地域の方々が自らの地域を楽しむ姿が見られます。

(5) 灰塚ダム・ハイヅカ湖

灰塚ダムの主な役割は、ダム下流の人々の命・財産を洪水から守ること、三次市と庄原市にそれぞれ日量 10,000 トン、5,000 トンの水道水・農業用水を供給することのほか、下流の河川水が不足する場合に環境用水を放流し、ダム下流の環境を改善する機能も備えています。

また、ハイヅカ湖地域には、知和ウェットランド、なかつくに公園などの自然を活かした施設があり、四季折々の花を見学できる場所も点在します。さらに、湖畔では釣りやキャンプを楽しむ人が増加しています。

3. ハイヅカ湖地域ビジョンの基本方針（案）

ハイヅカ湖地域ビジョン基本方針（案）は、「ハイヅカ湖地域ビジョン推進委員会」及び「ハイヅカ湖地域ビジョン分科会」での意見交換やアイデアを基に作成したものです。

ハイヅカ湖地域ビジョン基本方針（案）

「笑湖ハイヅカ」

～人と自然が元気で笑顔があふれる湖域づくり～

(1) なごみのふるさとと美しいダムづくり

ハイヅカ湖地域の人々が楽しく誇りを持って暮らすとともに、訪れる人々を歓迎しつつ、ハイヅカ湖地域を自慢できるようにします。また、ハイヅカ湖周辺の環境や施設等を活用した健康や福祉に取り組み、地域の持続的な維持を推進します。

(2) 笑湖をつなぐネットワークづくり

ハイヅカ湖や周辺の里山などの地域資源を最大限に活かすために、素敵な自然や営み、地域の人々や広域的な有志、行政等をつむぐネットワークをつくります。また、江の川流域に加え、中国地方のほぼ中央に位置するハイヅカ湖地域は、他地域との交流を促進します。

(3) 自然との共生を知り、学ぶ笑湖づくり

ハイヅカ湖地域の里山やハイヅカ湖のウェットランド等の環境と循環を守り、地域の自然的魅力を、先ず地域が深く理解し郷土愛を育むとともに、より多くの方々にハイヅカ湖地域から学ぶ機会・活動を提供し、湖域を丸ごと「里山博物館」として活かしていきます。

(4) 情報、人材、経済などが力強く回る、安定した基盤づくり

灰塚ダムによりダム下流地域の安全・安心な暮らしを守るとともに、ハイヅカ湖地域の暮らしの活性化に向け、地域情報を提供・発信していきます。また、ハイヅカ湖地域での安定した働き場の拡大に向け、ハイヅカ湖や里山の活用の促進、地域リーダーとなる次世代を含めた人材育成のシステムづくりを行います。さらには各取り組みの相乗効果を高めるため、各取り組みの連携を図ります。

取り組みテーマ

ハイヅカのきれいを味わう

日本一の里山づくり

ぐるっとハイヅカ

健康・福祉のメッカ

里山の自然博物館

取り組みの基盤をつくる

・地域情報の提供・発信

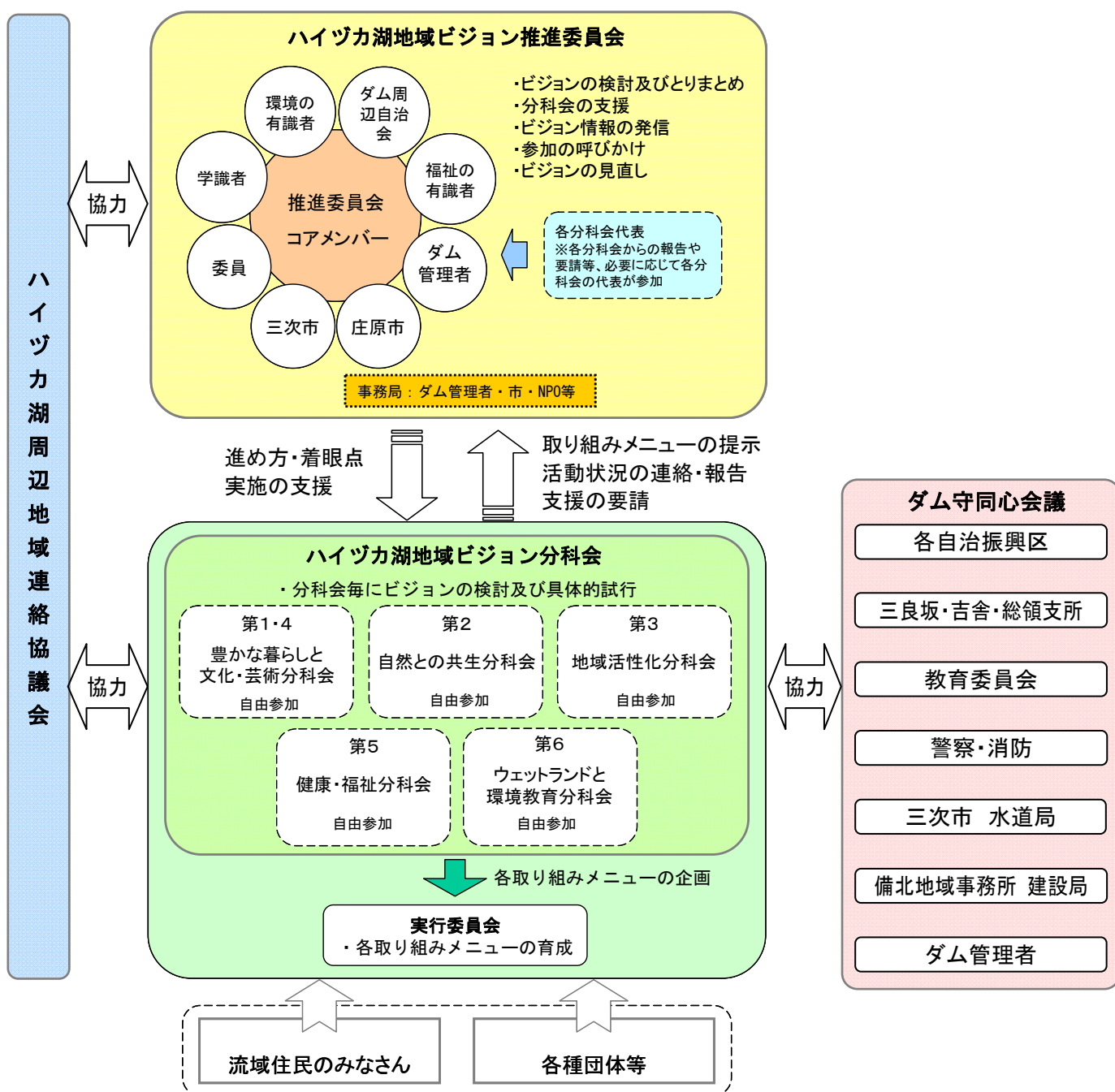
・人材育成のシステムづくり

4. ハイヅカ湖地域ビジョンの推進体制

ハイヅカ湖地域ビジョンの取り組みは、参加するみなさんが中心となって進みます。分科会では、ワークショップ形式での意見交換や具体的な活動を行っていきます。“楽しく、なごやかに”をモットーとして、わいわい・がやがやとハイヅカ湖地域の今、これからのことを話し合い、将来に向けた取り組みを行っていきます。

また、ハイヅカ湖地域では、水源地域に暮らす住民の方、関係機関およびダム管理者の連携を将来にわたって維持し、信頼性の高い情報連絡体制の構築、湖域の自然環境の保全や公共施設の適切な維持管理などを目的とした「ダム守同心」活動が行われてきました。

今後は、情報提供や活動支援などを通じ、よりいっそうの連携体制を構築していきます。



5. ハイヅカ湖地域ビジョンの実施内容(案)

(1) 取り組みの実施方針(案)

ハイヅカ湖地域ビジョンは、以下に示す実施方針に基づいて実施していきます。

① 地域の合意形成による実行プロセス

ハイヅカ湖地域ビジョンの取り組みは、各分科会または実行組織を中心として、企画及び実施していきますが、ハイヅカ湖地域の合意は、取り組みの実施に不可欠です。

自治振興区連絡協議会や三次市及び庄原市の支所等の関係機関との連携を図りながら、適切に情報を発信し、地域との合意形成による実行プロセスを基本とします。

② 計画的・段階的な取り組み

ハイヅカ湖地域ビジョンの取り組みは、多様な主体の参画による実施が重要となります。しかし、取り組みを実施することによって、かえって地域が疲弊してしまうようでは、取り組む意味が薄れてしまいます。

そこで、ハイヅカ湖地域ビジョンの取り組みメニューは、まず、地域の実情に応じたものから実施していくものとします。

③ まずは“やりたいこと”、“できること”から

ハイヅカ湖地域ビジョンの取り組みは多岐に渡っています。いずれの取り組みも目的や熱意を持って立案されたものですが、全てを一度に実行することは難しく、また、継続して実施することができなくなってしまう。

よって、取り組みメニューについては、基本的に“すぐにでもやりたいもの”、“できること”から実施していくことが肝要になります。取り組みメニューの実行については、その重要性や緊急性を鑑みながら、地域のニーズやとつきやすさなどの面からも協議した上で、優先順位を設定していきます。

④ スパイラルアップの仕組み

魅力・活力ある地域に発展していくためには、ハイヅカ湖地域ビジョンの取り組みを継続的に実施することが肝要です。その際、その取り組みにはどんな効果があり、どう評価されたのかを把握することが重要です。検証プロセスの中で、課題や改善点を見出し、次の取り組みへとつなげていくことで、持続的な発展が期待できます。

そこで、ハイヅカ湖地域ビジョン推進委員会を、取り組みの検証機関と位置づけ、スパイラルアップの仕組みづくりを行うとともに、各取り組みへのサポートやアドバイスを行います。

(2)ハイヅカ湖地域ビジョン 取り組みメニュー

取り組みテーマ	重点的な取り組み	その他、意見・アイデア
ハイヅカの きれいを味わう	<ul style="list-style-type: none"> ①大谷植物園を活用したイベント・取り組みの実施 ②★ガードレール・標識・案内板などの色調の統一 ③地元の事(自然・文化・歴史・料理)を知る ④モミジ山の維持管理 ⑤エコトイレの設置及びデザイン提案と周辺の整備 ⑥湖面を鑑賞するための眺望点づくり ⑦湖畔の散策を楽しむための植樹・花植・草刈 	<ul style="list-style-type: none"> ・里山の手入れ ・地元大豆の味噌づくり ・兼業の促進 ・安全な農作物づくり ・美味しいものをみんなで食べ教える ・伝統文化に誇りをもつ(神楽、盆踊り等) ・写真・絵はがきコンテストを継続する ・都市部・他地域の人とのコミュニケーション ・ハイヅカの情報をネットで配信したり、新聞、TV、ガイド本等でPR ・行政とタイアップして空き家等を利用した住民移住計画の推進
日本一の 里山づくり	<ul style="list-style-type: none"> ①★ハイヅカ湖地域を知り、ビューポイントに名前をつける「探湖会」、魅力を探す「ええと湖探し」の実施 ②雑草、かずらなどを利用し楽しむ、野の花(山野草)を輝かす ③「里山の達人」になる・を発掘する・を育てる 	<ul style="list-style-type: none"> ・自給自足を売りにした宿泊所を作る ・ハイヅカ湖へバスツアーで都市から来てもらう ・青空教室を開く ・地域の方が株主になって地産地消の場をつくる ・何時でも湖水面が見えるようにする
ぐるっと ハイヅカ	<ul style="list-style-type: none"> ①★「抱きしめて笑湖(エコ)ハイヅカ」の開催 ⇒地域活性化NPOの設立 ②★「空心菜笑湖路地栽培特産化」の推進 ③エコトイレの設置提案・維持管理方法についての話し合いを通じた地域活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・スローライフの体験 ・Iターンの促進 ・松茸再生 ・森林保護 ・地域の方が参画できる物産館 ・ハイヅカオリジナルの発信や開発

★ :リーディング(先行的・試行的)プロジェクトとして、分科会の協議を経て位置づけたもの

青字:平成 19~20 年度で取り組みを実施したもの(引き続き実施する予定)

赤字:取り組みを企画中または実行中のもの

取り組みテーマ	重点的な取り組み	その他、意見・アイデア
健康・福祉の メッカ	<ul style="list-style-type: none"> ①★健康・福祉のマップづくり ②情報 BOX の設置 ③パークゴルフ・グラウンドゴルフの促進 ④老若男女・万人のための健康スポーツ企画(車椅子ウォーキング・(電動カー)ハイキング・マラソン・ウォーキングなど) ⑤エコトイレの設置提案 	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュータイプ福祉の家・湖域構想・水上サッカー場をつくる ・運動公園周囲の 3S(整理、整頓、掃除) ・季節毎のウォーキング(花、木、紅葉鳥の時期) ・電動スクーター教習所、運動療法への活用 ・新スポーツ“草(くさ)レチック”大会の開催 ・つけもの(自然、健康食、ブルーギルずし)レストランの開店
里山の 自然博物館	<ul style="list-style-type: none"> ①ブッポウソウの巣箱用支柱の設置と巣箱かけ ②★ウェットランド団による環境学習(笑湖楽校) ③周辺自治会との協力による苗づくりと植樹会(ドングリ、モミジ、実もの) ④バス当歳魚の駆除 ⑤ウェットランドの広報活動 ⑥ウェットランドの管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・コウノトリの住む環境作り ・環境センターの設立 ・紅葉林を多くする ・ネットによるPR ・ウェットランドの予算獲得 ・人の手を入れない環境づくり ・ファンクラブ定期集会

★ :リーディング(先行的・試行的)プロジェクトとして、分科会の協議を経て位置づけたもの

青字:平成 19~20 年度で取り組みを実施したもの(引き続き実施する予定)

赤字:取り組みを企画中または実行中のもの

地域活性化 を支える ダム管理	<ul style="list-style-type: none"> ①防災への取り組み ②ダム湖の環境管理 ③情報提供・交流促進
-----------------------	--

(3)ハイヅカ湖地域ビジョン リーディングプロジェクトの取り組みの内容

① 大谷地区ガードレールのデザインペイント

ハイヅカ湖周辺は、アースワークの活動が展開されたこともあって、芸術作品が地域各所に点在するとともに、ガードレールについてもアースカラーで統一する取り組みが実施されました。しかし大谷地区は通常の白色ガードレールであるため、ガードレールをデザイン塗装し、一体としての景観づくりが望まれています。

そこで、大谷地区のガードレールのデザインに向けたワークショップを開催し、デザイン塗装を実施します。(H21.3 現在までに第4回WSまで開催済み)

【実施内容・実施方法】

(a) 芸術系の高校生や大学生等との協働によるデザイン企画・塗装

- ・芸術系の高校生や大学生等の参画を呼びかけ・募集し、若者たちと地域が一緒になって、配色やデザインの企画を作ります。
- ・若者たちと地域の参加によるガードレールのデザイン塗装を実施します。
- ・大谷地区の塗装後は、適宜、他の箇所についても計画・実施します。
- ・継続的な取り組みへと発展させるため、地域主体の実行組織をつくります。

(b) アースワーク作品の地域ガイド

- ・上記の取り組みと連携して、ハイヅカ湖周辺に点在するアースワーク作品について、地域でガイドし、高校生や大学生等と一緒に地域を見つめ直し、地域の魅力について考えます。
- ・アースワーク作品の地域ガイドを定着させ、ハイヅカ湖地域を訪れた方々に積極的にガイドし、地域の魅力をPRします。
- ・併せて、アースワーク作品のガイドブックを作ります。

実施年次	平成 20 年度～平成 22 年度	実施主体	実行委員会
実施手法	平成 20 年度 学生・地域への呼びかけ、デザインワークショップの開催 平成 21 年度 塗り替えの実施、アースワークの地域ガイド育成・試行 平成 22 年度 アースワークの地域ガイドの実施、その他の箇所の塗装		



第1回WS 大谷植物園の現地視察



第3回WS 1:2スケールデザイン案の製作

② ハイヅカええと湖探し

ハイヅカ湖周辺は、里山環境が広がっています。里山は地域の暮らしと密接した場所であるとともに、その環境には多くの動植物が生息・生育しています。しかし、地域の過疎化や少子高齢化が進行しており、里山の手入れ等の担い手が不足し、里山の荒廃が進んでいます。

そこで、まずはハイヅカ湖地域の方々に失われつつある里山の魅力を伝えるために、ハイヅカ湖地域の魅力を探しマップにする“ハイヅカええと湖探し”を実施します。

【実施内容・実施方法】

(a) ハイヅカええと湖探し

- ・「ハイヅカええと湖探し」と称し、ハイヅカ湖地域への参加を呼びかけつつ、ハイヅカ湖周辺の魅力の収集をイベント形式で行います。収集にあたっては、湖面からの目線、夜や朝の景色、四季の変化など、時々に変わり行く姿をさまざまな切り口から捉えます。
- ・収集した情報は、マップとして整理し、ハイヅカ湖地域に配布するとともに、ハイヅカ湖地域を訪れる方々にも利用できるようにします。
- ・マップを活用し、今後は課題も同時に探し、里山環境を保全するためにできることを、分科会及び地域、関係機関等と協議して実施します。

実施年次	平成 20 年度～平成 21 年度	実施主体	第 2 分科会
実施手法	平成 20 年度 ハイヅカええと湖マップの作成 平成 21 年度 里山環境の保全のための取り組み（分科会等の開催）		



「ええと湖探し」 秋のお月見会



ハイヅカ湖 ネイチャーマップ(原案)

③ 空心菜^{エッコ}笑湖プラント

ハイヅカ湖地域には、当然ながら、広大なハイヅカ湖の水面が存在します。この貯水池を上手く活用して、地域の活性化や地域振興に結びつけようという目的で、中国野菜の「空心菜」の水耕栽培を実施します。空心菜は栄養価が高いとされ、また日本ではあまりなじみのない食材であるために、ブランド化も視野に入れて特産品化を検討します。さらに空心菜は栄養吸収力が強いとされており、ハイヅカ湖の水質保全への貢献も期待できます。

【実施内容・実施方法】

(a) 空心菜特産化委員会(仮称)の設置

- ・空心菜笑湖プラントの設置及び空心菜の試験栽培に向けた企画・アクションを推進する母体として、地域からの参画を募り、実行委員会(実行組織)を平成21年1月に設置しました。
- ・各自の得意分野を十全に活かせるよう、“生産”“企画”“研究”の3つのグループに分けてこの取り組みを推進していきます。

(b) 空心菜の試験栽培

- ・上記実行委員会にて、プラントの設置場所、規模、栽培方法、管理などについて協議し、具体的なプランを作成します。
- ・試験栽培プランに基づき、実行委員をはじめ、各主体の参画を促し、試験栽培を実施し、生育状況、商品価値(味、臭い、食感など)を検証します。

(c) 特産品化に向けた検討

- ・ハイヅカ湖ならではの特産品化を目指すために、生産方法やレシピ、パッケージング(ネーミング等販促企画)、品質分析等の検討を行います。

実施年次	平成20年～平成22年度	実施主体	空心菜特産化実行委員会(仮称)
実施手法	平成20年度	空心菜特産化実行委員会(仮称)の設置及び企画会議の開催	
	平成21年度	空心菜の試験栽培	
	平成22年度	特産品化に向けた検討	



第3分科会 空心菜に関する企画会議



ペットボトルを活用した育苗のアイデア

④「抱きしめて笑湖ハイヅカ」

ハイヅカ湖地域をたくさんの方に知っていただくとともに、地域コミュニティの活性化を目的として、「抱きしめて笑湖ハイヅカ」を開催します。「抱きしめて笑湖ハイヅカ」とは、たくさんの方にハイヅカ湖を訪れてもらい、ぐるっとハイヅカ湖を囲もうというアイデアです。

ハイヅカ湖を核にして、ハイヅカ湖地域の連携、ハイヅカ湖地域と他地域、さまざまな人とのネットワークを促進するとともに、このプロセスを通じて地域の成長が期待されます。また、開催後は、活動資金を基にハイヅカ湖地域の活性化を目的としたNPOの設立を視野に入れていきます。

【実施内容・実施方法】

- (a) 「抱きしめて笑湖ハイヅカ」実行委員会の設置
 - ・「抱きしめて笑湖ハイヅカ」の進め方や企画、連絡調整などを行うため、有志による実行委員会（実行組織）を平成20年12月に設置しました。
- (b) 「抱きしめて笑湖ハイヅカ」実行委員会及びプレイベントの実施
 - ・上記、実行委員会にて、具体的な進め方などについて協議し、具体的なプランを作成します。
 - ・ハイヅカ湖をぐるっと囲む本番に向けて、ハイヅカ湖地域をPRし、取り組みを周知するために、プレイベントを定期的実施していきます。
- (c) 「抱きしめて笑湖ハイヅカ」の開催
 - ・上記プロセスを経て、2010年5月4日(祝・みどりの日)を目標に、「抱きしめて笑湖ハイヅカ」を開催します。
- (d) 地域活性化NPOの設立
 - ・開催後は、活動資金を基に、ハイヅカ湖地域の活性化を目的とするNPO団体の設立を目指します。

実施年次	平成20年度～平成23年度	実施主体	「抱きしめて笑湖ハイヅカ」実行委員会
実施手法	平成20年度	「抱きしめて笑湖ハイヅカ」実行委員会の設置及び委員会の開催	
	平成21年度	1年前プレイベントの開催	
	平成22年度	「抱きしめて笑湖ハイヅカ」の開催	
	平成23年度	ハイヅカ湖地域の活性化を目的としたNPO法人の設立	



第1回 実行委員会



- 13 - プレイベントの開催 H19年みどりの日

⑤ 健康・福祉のマップづくり

少子高齢化が進行するハイヅカ湖地域においては、いきいきとした生活、活力あるコミュニティを維持していくためには、健康づくりが不可欠です。また、ハイヅカ湖地域を支えていくための福祉も重要です。ハイヅカ湖では、毎年、健康ウォークやハイヅカ湖マラソンなどが開催され、地域の関心も高く、ウォーキングなどが盛んです。

ハイヅカ湖を囲む道路は周回でき、また、ハイヅカ湖のビューポイントがたくさんあることから、ハイヅカ湖の景色を楽しみつつ、健康づくりに向けたウォーキングやマラソンマップを作成します。

【実施内容・実施方法】

(a) 健康・福祉マップの作成

- ・健康と福祉をテーマに、ハイヅカ湖地域のお勧めウォーキングコースやマラソンコースなどをマップにします。
- ・マップには、単なるコースではなく、ハイヅカ湖の見所などを掲載するとともに、距離＋カロリー表示など、楽しく健康づくりに取り組めるような工夫を検討します。

(b) マップを活用した健康・福祉の取り組み

- ・福祉と健康マップを活用し、ハイヅカ湖地域の方々が気軽に健康づくりに取り組むためのウォーキング企画、距離票の設置などを検討します。

実施年次	平成 20 年度～平成 21 年度	実施主体	第 5 分科会
実施手法	平成 20 年度 福祉と健康マップの作成 平成 21 年度 マップを活用した健康・福祉の取り組みの実施		



ウォーキングマップ(原案)



「ハイヅカ湖健康ウォーク 2007」

⑥ ウェットランド団による環境学習（笑湖楽校）

ハイヅカ湖には、ダム湖の水質浄化と湿地環境の創出を目的としたウェットランドがあります。ウェットランドには、多様な生物が生息・生育しているとともに、自然環境を身近に学べる場所です。しかしながら、ハイヅカ湖地域をはじめ、周辺地域でもその存在がそれほど認知されていません。

ウェットランドが有する自然のポテンシャルを活用し、ハイヅカ湖を優れた環境学習の場として広く認識いただくために、ウェットランドの応援団である“ウェットランド団”による環境学習を実施していきます。

【実施内容・実施方法】

（a）ウェットランド団の募集及び勉強会の開催

- ・ウェットランド団は現在のところハイヅカ湖地域の有志により結成されていますが、今後も広く参加を呼びかけ、ウェットランド団の増員を図ります。
- ・ウェットランド団が環境学習や体験活動等で安全に楽しく指導できるよう、各種勉強会（動植物、指導法、安全管理等）を開催します。

（b）ウェットランド団による「ウェットランド笑湖楽校」の開催

- ・ウェットランド団による環境学習や体験活動を「ウェットランド笑湖楽校」と称して、年間を通じて、定期的に環境学習会や体験活動の機会を提供していきます。
- ・近隣の小学校、三次市・庄原市の中学校や高校に呼びかけ、定期的な観察会や環境保全活動等を展開していきます。

実施年次	平成 20 年度～平成 22 年度	実施主体	ウェットランド団、第 6 分科会
実施手法	平成 20 年度	ウェットランド団の結成及び勉強会の開催	
	平成 21 年度	ウェットランド笑湖楽校の実施	
	平成 22 年度	近隣の小学校や中学校、高校と連携した環境保全活動等の実施	



笑湖楽校 第 3 回 知和沼沢地にて



笑湖楽校 第 4 回 鳥類勉強会

⑦ ハイヅカ湖地域ビジョン WEB

ハイヅカ湖地域ビジョンの取り組みの一環として、平成 19 年度から「ハイヅカ湖地域ビジョン WEB」を立ち上げ、インターネット上でビジョンの取り組みの紹介、活動の報告、イベントのお知らせやハイヅカ湖地域の魅力発信などを行っています。

今後も継続してハイヅカ湖地域のインターネットによる取り組み状況の共有、魅力発信などを行うとともに、各種協力者とのネットワークの構築に努めます。

【実施内容・実施方法】

(a) タイムリーで役立つ地域情報の発信

- ・地域で催される季節ごとの各種イベントなど、ハイヅカ湖地域の魅力を随時発信します。

(b) 各種協力者とのネットワークの構築

- ・他の水源地域ビジョンを策定している地域と協力して、情報の共有やアイデア交流などを積極的に行います。
- ・取り組みに関心のある活動団体や知和ウェットランドの自然環境に関心のある教育・研究機関、歩こう会などとのネットワークを結び、ハイヅカ湖地域の魅力をより多くの方に知ってもらうよう努めます。

実施年次	平成 21 年度～	実施主体	ハイヅカ湖地域ビジョン事務局
実施手法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域情報の収集 ・ 地域情報の発信 ・ 各種関係機関等とのリンク 		



ハイヅカ湖地域ビジョン WEB のトップページ

(4) 重点的な取り組みの内容(リーディングプロジェクト以外のもの)

1) 大谷植物園を活用したイベント・取り組みの実施

大谷植物園およびその周辺で、大谷地区の魅力を活用したイベントの開催や、オオムラサキの舞う谷にするために、エノキの植樹や間伐などの活動に取り組みます。また間伐材や倒木の活用について検討します。

2) 地元の事(自然・文化・歴史・料理)を知る

ハイツカ湖地域で展開されたアースワーク等の芸術活動や地域の自然、地域の食などをテーマに、地域の方が地元のことを知る活動に取り組みます。



自然観察ガイド養成講座



手前味噌づくり



灰塚大橋

3) モミジ山の維持管理

ハイツカ湖の見所の一つにするべく、モミジ山に植栽した樹木等の維持管理を行います。また、モミジが美しい時期には、訪れた方が楽しく散策できるよう、周辺の清掃活動等を行います。



モミジ山(右手奥)

4) エコトイレの設置及びデザイン提案と周辺の整備(維持管理方法についての話し合いを通じて地域活性化)

ハイツカ湖は湖岸の延長が約30kmあります。各箇所には駐車場や展望所などが設置されていますが、トイレの数は十分とはいえません。そこで、維持管理が比較的容易なエコトイレを設置することを話し合い、そのデザインや周辺の整備などを検討します。また、エコトイレの設置や維持管理の方法などを地域で話し合うことによって、地域交流を促進し、地域の活性化を図ります。

5) 湖面を鑑賞するための眺望点づくり

ハイツカ湖は、美しい湖面やシンボルとも言える噴水、また、湖面に見る鳥類など、四季折々の景色が楽しめます。そこで、ハイツカ湖への眺望が良い場所を選び、いつも湖面を眺めることができるように、草刈りや清掃などの活動を行うとともに、各種マップなどで情報提供を行います。

6) 湖畔の散策を楽しむための植樹・花植・草刈り

ハイツカ湖畔は、地域の散策の場として多くの方に利用されています。そこで、より散策を楽しめるよう、植樹・花植を行い、さらに地域の愛着を高める取り組みを行うとともに、併せて草刈りや清掃活動を行い、気持ちよく楽しめる湖畔を目指します。

7) 雑草・かずらなどを利用し楽しむ、野の花（山野草）を輝かす

雑草やかずらなどを単なる邪魔者として扱うのではなく、ひとつ一つを観察しながら除草することで、雑草の名前を学び、地域の自然を感じることができます。またかずらなどのつる植物は、工作や工芸などにも利用できます。こういった取り組みを通じて、野の花や山野草を知り、地域の大切な魅力としての利活用を目指します。

8) 「里山の達人」になる、を発掘する、を育てる

ハイツカ湖地域はかつて、里山と共に暮らす生活を送っていましたが、現在となつては、当時の知恵や文化などが継承できなくなりつつあります。また、人手不足などによって里山の荒廃が顕著化しつつあります。そこで、里山の知恵や文化を学び、里山で遊び、里山を守る「里山の達人」に地域自らがなるとともに、若者や子どもたちに継承し、「里山の達人」を発掘する、育てる活動を行います。

9) 情報 BOX の設置

ハイツカ湖地域の方々の意見、ハイツカ湖を訪れる方々の意見などを広く聴取するために、ハイツカ湖地域の各所にご意見箱となる情報 BOX の設置を考えます。集められた情報は、自治振興区連絡協議会やダム守同心、ビジョン事務局等で共有し、適切に活動に反映していきます。

10) パークゴルフ・グラウンドゴルフの促進

ハイツカ湖地域には、パークゴルフ・グラウンドゴルフを楽しむ姿が多く見られます。高齢者・身障者の方などが健康維持・促進として取り組みやすいパークゴルフ・グラウンドゴルフの啓発活動を行うとともに、広域的な利用促進に取り組みます。

11) 老若男女・万人のための健康スポーツ企画

ハイツカ湖の湖岸では、健康ウォークやハイツカ湖マラソンなどのイベントが定期的に行われており、また、遠方からも歩こう会などでハイツカ湖が利用されています。そこで、さらに地域の方や高齢者・身障者の方などが参加できる健康スポーツをハイツカ湖で企画します。



「ハイツカ湖健康ウォーク 2007」

1 2) ウェットランドでのブッポウソウの巣箱用支柱の設置と巣箱かけ

ハイツカ湖地域である安田地区では、巣箱かけなどブッポウソウの保護活動が取り組まれています。平成20年度には、ウェットランドにもブッポウソウの巣箱を設置し、繁殖が確認されています。そこで、さらにウェットランドに巣箱用の支柱を設置するとともに巣箱かけを行います。



ウェットランドに訪れたブッポウソウ

1 3) 周辺自治会との協力による苗づくりとウェットランドの植樹会

ウェットランドは、ハイツカ湖に湿地環境を創出するために設置されました。現在では多様な生きものが生息・生育しており、徐々にではありますが、その数も増えつつあります。そこで、より良い環境づくりとして、樹木が少ないウェットランドに、周辺自治会と協力し、各家庭で植樹する木の苗（どんぐり等）を育ててもらい、植樹活動を行います。

1 4) ウェットランドのバス当歳魚の駆除

ウェットランドには多様な生物が生息しています。魚では、メダカやフナなど緩やかな場所を好む魚が多くいますが、現在、オオクチバス（ブラックバス）が徐々に勢力を拡大しており、在来種への影響が懸念されています。そこで、効果的に駆除するために、特にブラックバスの当歳魚（その年に生まれた魚）を対象に、駆除活動を行います。




駆除状況 ウェットランド

1 5) ウェットランドの広報活動

ウェットランドは、三次市・庄原市の総合学習等の学校活動で来場される他、各種の活動で多くの方が来場されていますが、地域の認知度は、まだまだ向上させていく必要があります。そこで、ウェットランド団からの口コミや各種の活動などを通じて、より広域的に、多くの方に対して広報活動を行います。

1 6) ウェットランドの管理

ウェットランド団を中心に、より多くの方に快適にウェットランドを利用してもらうために、駐車場や通路周辺などの清掃や草刈りを行います。また、ウェットランドそのものについても、関心者や取り組みに共感いただける方を募り、生きものを保全していくための取り組みを行います。



17) 防災の取り組み

18) ダム湖の環境管理

19) 情報提供・交流促進

(5)ハイヅカ湖地域ビジョン 実施スケジュール

取り組みテーマ	取り組みメニュー	主な実施主体・支援・参加							実施スケジュールとレビュー年次										
		分科会	地域	自治体	学校・教育機関	広域的な有志	ダム守	ダム管理者	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	
ハイヅカの きれいを味わう	①大谷植物園を活用したイベント・取り組みの実施	第1・4	■	○	■			■○											
	②★ガードレール・標識・案内板などの色調の統一	第1・4	■	○	■			■○	→										
	③地元の事(自然・文化・歴史・料理)を知る	第1・4	■	○				■○	→										
	④モミジ山の維持管理	第1・4	■	◎			(○)	■○											
	⑤エコトイレの設置及びデザイン提案と周辺の整備	第1・4、3、5	■	○			(○)	■○											
	⑥湖面を鑑賞するための眺望点づくり	第1・4	■	○				■○											
	⑦湖畔の散策を楽しむための植樹・花植・草刈り	第1・4	■	○				■○											
日本一の 里山づくり	①★ハイヅカ湖地域を知り、ビューポイントに名前をつける「探湖会」、魅力を探す「ええと湖探し」の実施	第2	■					■○	→										
	②雑草、かずらなどを取り除くだけでなく、利用し楽しむ野の花(山野草)を輝かす	第2	■	○				■○											
	③「里山の達人」になる、を発掘する、を育てる	第2	■	○	■	■○	(○)	■○											
ぐるっと ハイヅカ	①★「抱きしめて笑湖ハイヅカ」の開催 ⇒地域活性化NPOの設立	「抱きしめて笑湖ハイヅカ」実行委員会	■	○		■○	(○)	■○	→										
	②★空心菜の特産化に向けた取り組みの推進	空心菜特産化委員会(仮称)	■			■○	(○)	■○	→										
	③エコトイレの設置提案・維持管理方法についての話し合いを通じた地域活性化	第3、1・4、5	■	○			(○)	■○											
健康・福祉の メッカ	①★健康・福祉のマップづくり	第5	■	○				■○	→										
	②情報BOXの設置	第5	■	○				■○											
	③パークゴルフ・グラウンドゴルフの促進	第5	■	○				■○											
	④老若男女・万人のための健康スポーツ企画	第5	■	○			(○)	■○											
	⑤エコトイレの設置提案	第5、1・4、3	■	○			(○)	■○											
里山の 自然博物館	①ウエットランドでのフッポウソウの巣箱用支柱の設置と巣箱かけ	第6	■					■○	→										
	②★ウエットランド団による環境学習(笑湖楽校)	第6	■		■			■○	→										
	③周辺自治会との協力による苗づくりとウエットランドの植樹会(ドングリ、モミジ、実もの)	第6	■	○	■			■○											
	④ウエットランドのバス当歳魚の駆除	第6	■		■			■○											
	⑤ウエットランドの広報活動	第6	■	○				■○											
	⑥ウエットランドの管理	第6	■	○				■○											
地域の活性化を 支えるダム管理	①防災への取り組み	—	■	○	■		(○)	◎	→										
	②ダム湖の環境管理	—	■	○	■		(○)	◎	→										
	③情報提供・交流促進	—	■	○	■		(○)	◎	→										

★：リーディング(先行的・試行的)プロジェクトとして、分科会の協議を経て位置づけたもの
 青字：平成19～20年度で取り組みを実施したもの(引き続き実施する予定)
 赤字：取り組みを企画中または実行中のもの
 ■：参加 ○：支援 ◎：主な実施主体

→ 実施した取り組み
 → 企画・活動中の取り組み
 → 取り組みのレビュー

(6)ハイツカ湖地域ビジョンのレビュー計画

ハイツカ湖地域ビジョンの実行においては、それぞれの取り組みの進捗やその評価及び課題・改善点を適宜チェックしながら、それぞれの取り組みにフィードバックすることが重要です。このプロセスの中で、改善できるところは改善し、さらに新たな展開が必要な際は、改めて実施方針に則り進めていくことが肝要です。また場合によっては中止すべきものを検証する必要があるかも知れません。

このように、立てた計画（ハイツカ湖地域ビジョン）を適宜見直し（レビュー）、その取り組みや計画そのものを、スパイラルアップ（計画 ⇒ 実行 ⇒ 検証 ⇒ 改善 ⇒ 計画の見直し ⇒ 実行・・・）によって、より良いものへ高めていきます。

1) レビューの時期

ハイツカ湖地域ビジョン及びそれぞれ実施される取り組みについては、必要に応じて適宜、見直し（レビュー）を行います。基本的には1年に1回、取り組み状況の確認を行っていきます。

2) レビューの実施主体

ハイツカ湖地域ビジョンやその取り組みの見直し（レビュー）は、ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会において行います。ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会では、それぞれの取り組み状況を確認するとともに、それぞれの取り組みに対して支援・助言・協働します。また、必要に応じて計画の見直しや改善などの提案を行います。

3) レビューの実施手法

①取り組み状況の確認

ハイツカ湖地域ビジョンの各取り組みにおいて、それぞれの実施主体から活動状況について、ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会に情報提供いただきます。特に、催し物やイベント、学習会等が開催される場合には、その情報を提供いただきます。

（報告：各実施主体、収集：ハイツカ湖地域ビジョン事務局）

②ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会の開催

基本的には1年に1回、同委員会を開催し、それぞれの取り組み状況について提供いただいた情報を基に、ハイツカ湖地域ビジョンと照らし合わせ、同委員会からの支援・助言・協働について協議します。

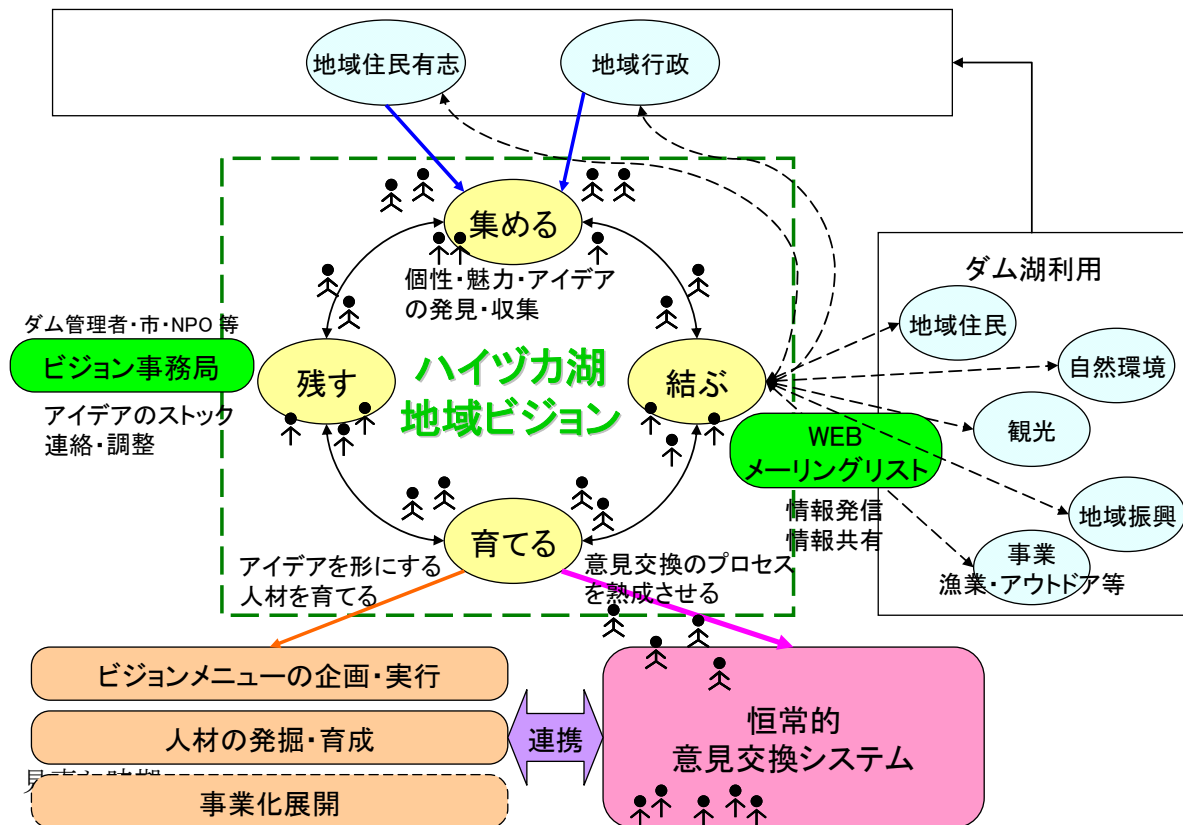
また定期開催とは別に、取り組みの各段階に応じて、同委員会を開催し、助言・改善・見直し等の提案を行います。

③適切な情報共有

ハイツカ湖地域ビジョンの取り組み状況を共有し、誰からも意見や提案ができるように、ホームページでの情報提供を行います。

4) スパイラルアップのための仕組みづくり

ハイヅカ湖地域ビジョンの推進にあたっては、上記のレビューが適切に実施され、また、改善策や提案が計画や実行に反映されるようにするために、スパイラルアップのための仕組みづくりを行います。



ハイヅカ湖地域ビジョンづくりのための提言(案)

平成 20 年 11 月 25 日

ハイヅカ湖地域連絡協議会 会長 今井秀明

テーマ：人と自然が元気で笑顔があふれる「笑湖ハイヅカ」の創出

1. はじめに

住民自治とは、自分の明日は自分で決める(創る)ことである。

安 全：いのちを守る

安 心：助け合う

楽 し み：親睦・交流

経済活動：金・生活の確保

誇 り：地域の輝きづくり

この5つの確保は、個人の責任が一番で、その次が家族、そして地域(自治振興区)の順である。それらが、個人や地域でできなくなった時に、行政や会社などの機能的な組織がつくられた。今、個人は高齢化し、家族は極小化し、地域は限界集落化し、行政には金がなく、経済も予想を超える金融不安などで、極めて厳しい時代である。このハイヅカ地域も例外ではない。そして、住民の中には、「ダム建設によってそうなった」と言う人も少なくない。

しかし、「灰塚ダム」はできてしまい、時代はそうなってしまっているのであり、恨み言を言っているだけ、時代を分析したり、行政を批判しているだけでは何も解決しない。「輝く(幸せな)明日を創る主役は私たち」と腹を決めて、逆境をもバネにして、前向きに進むしかない。ハイヅカ湖地域に住み、その自治活動を担っている私たちは、その思いで、自治活動に取り組み、今回のビジョンづくりにも参画している。

灰塚ダム建設で創出された「ハイヅカ湖」と、それに伴い整備された資源を活用して、地域活性化につながるビジョンづくりの一翼を担いたい。

しかし、私たちの思いの底にあるのは、「このままではこの地域は消滅するのではないか」という強い危機感である。最大の課題は、人口の減少であり、少子高齢化で自治活動を展開する人材も少なく、やっている私たちも「疲れている」のが現実である。家へも、地域へも「後継者」が見えない状態であり、これまでやってきたことも「止めよう」と言えば、直ぐに賛同が得られ、何か新しいことや前向きなことをやろうとすると、なかなか合意形成が得られないのが現実である。

国土交通省がビジョンに求めるものは、安全なダム(「きれいな水」も含む)の管理であり、下流や周辺の人たちの期待は、いのちを守るダム・いのちを元気にするダムと想像される。そして、改めて繰り返すが、湖域に住む私たちの願いは、「地域を守り、地域を活性化すること」である。

灰塚ダムは、里山に造られたダムであり、「凄い！」と言われる自然も建造物(これまでの物差しで評価される観光資源)もない。しかし、人間と自然が共存する「里山」は、時代が求める環境であり、人を癒す山野草は、ハイヅカ湖の周辺は「宝庫」である。また、建設に参画したアースワークプロジェクトの提案した「美しいダム」は、ダム建設の最先端の提案であり、そのテーマは「エコ」にもつながり、継承されなければならないと考えている。ただ、「下流のために(洪水調整のために)造られたダム」にもかかわらず、下流域の関心はそう高くなく、残念なことに、私たちと一緒に活性化に取り組むという気配は今のところ少ない。

また、直接この地域に関係する行政は三次市と庄原市にまたがるが、財政的な危機でもあり、「行政まかせ」では、この地域の活性化は望めないと認識している。

それゆえに、この提案である。われわれも主役として努力するが、国や両市も、その責任において、前向きに参画し、具現のために努力されることを強く望む。

2. 現状と課題

関係する地域全体が「限界集落化」していると思われる。

■高齢化率等 (2008.10.1 現在)

自治振興区	世帯数	人口	高齢化率	75歳以上率
のぞみが丘	117	486	34.8	23.7
仁賀	186	511	36.4	20.2
安田	154	385	46.7	
木屋	21*	50*	60.0	40.0
稲草西	263	578	33.6	21.6

※住民票では、世帯数が25世帯、人口60人になっていますが、上記は「実数」です。

まだ、葬式や地域を維持する草刈などがこれまでの地域組織で出来なくなった地域はないが、その寸前の地域は多く、区長の間では、10年後の地域、30年後の振興区の存続が強く危惧されている。

特に、リーダーや後継者の確保が問題で、このままでは、自治組織の運営も立ち行かなくなり、活性化事業(経済活性化事業や交流事業など後継者定住につながる事業)などへの挑戦は、無理と思われる。

イノシシなどの獣害もひどく、囲いの中でしか作物が作れない状況にある。また、草の生育は物凄く、「草と戦う」という表現がふさわしい状況であり、「草を食物にする」プロジェクトなど、逆境をもバネにする展開が必要である。

この地域は、農村ではあるが、農業で生活している人は極めて少なく、多くが兼業農家である。役場などの安定兼業先を持つ世帯は安定しているが、不安定な兼業先が多く、「安定兼業先の確保や創出」が最大の課題である。

「ハイツカ湖」や周辺の公園などは、地図にすら掲載されていない状態で、兼業先として期待される観光産業の創出への道のりは遠い。

ただ、「ハイツカ湖を走る人のメッカにしよう！」という提案から動き出した私たちの「灰塚ダム地域連絡協議会」や、勝手に組織された「笑湖ハイツカ歓交協会」の営み、そして、このビジョンづくりのためのリーディングプロジェクトなどの展開により、「動けば動く」手応えを感じている。

3. ^{エコ}笑湖ハイツカ活性化への提案

「人と自然が元気で、笑顔があふれるハイツカ湖域」を象徴する造語の「^{エコ}笑湖」は、私たちが思い描く地域の姿が見えるものであり、このビジョンも、「笑湖ハイツカビジョン」としたい。それは、一般的な呼び名ではないが、エコ尊重の時代にもマッチし、知名度の低いハイツカ湖のPRにも貢献するものと思われる。

(1) 美しいダムづくり

①「美しい水」「美しい里山」を守り、美しい生活空間を確保する。それは「歓交産業」に

もつながる。

- ・「ダム守同心」の活動の継続、そして、ここに住む私たちが問題のある洗剤を使わないなどの、日常的な「エコ活動」をする。
- ・蛍の里づくり（蛍サミットの開催・蛍の里のPR）
- ・草を食い物にするプロジェクト（研究・実験・点検・事業化）推進
- ・空心菜特産化プロジェクトの（研究・実験・点検・事業化）推進
- ・川や湖の利用プロジェクトの（研究・実験・点検・事業化）推進

② アースワークプロジェクトの提案と営みを継承発展させる

- ・ガードレールのアースワークカラー化と大谷のアートガードレールづくり
- ・現代アートの育成（見学会・ガイド養成・作品の確保など）
- ・アースワークの作品だけをアートにするのではなく、「地域全体を美しくする」というアースワークの理念を一般化し、具現したい。

③ 「エコトイレ」の配置と管理システムの確立

- ・国土交通省により、各種のエコトイレを計画的に建設（エコトイレモデルダムとして）
- ・その管理を自治振興区などで効率的に管理するシステムづくり

④ 新たな「笑湖」プロジェクトの開発

- ・なかつくに公園でナタネを作る：副ダムのヘドロ＝素敵な肥料

(2) 安定兼業先の創出

① 福祉団地構想のあった矢田地区へ理想の福祉団地をつくる

- ・三次市や福祉法人の参画を要請

② 歓交産業（この地域の観光資源は「笑顔の交流」に象徴される「小さなもの」や「小さな営み」が中心で、喜びを交し合う「歓交」がふさわしいと思われる）の創出。また、多くの集客力を持っている国営丘陵公園を含めた既存の観光地や観光施設とのネットワークの創出

- ・山野草など、小さく癒しにつながる里山の資源活用（山裾やダム周辺の草刈りと刈った草の活用研究）
- ・周辺のパークゴルフ場など、小さな施設の活用促進（連携したPR活動や連携してのイベント開催）
- ・こだわりのお店や営みの発掘。そして、PRと連携
- ・こだわりの人を集める「笑湖アーチスト市」の開催
- ・新たなこだわりの食べ事（含む店）づくり
- ・「絵本牧場ごんぼ(庄原市)」のような、こだわりの図書館づくり
- ・新たなこだわりの宿泊所づくり（総領の計画は？）
- ・決め手となる「温泉」の開発（日本人の観光には温泉が不可欠？ 矢田の福祉団地予定地に温泉源があるのでは...）
- ・地域をPRするイベントの推進（笑湖ハイツカ笑顔コンテスト、抱きしめて笑湖ハイツカなど）
- ・国土交通省が主催し、各自治振興区が主管する「笑湖(ハイツカ)祭」の当番開催（1年に1回・担当5年に1度・各自治体は出店などで協力する：疲れているリーダーたちにもやれる...）

例 のぞみが丘 えみきフェスティバル
仁 賀 さくら土手祭(花祭)
安 田 パークゴルフフェスティバル

木 屋 しだれ桜祭
稲 草 西 田総川を丸ごと食べる会

- ・走る人のメッカづくり推進（これは、単なるイベントではなく、この地域を象徴するイベントに育てる必要がある：担い手が見えない...）
- ・笑湖ハイツカの達人（兼ガイド）養成講座の開催
- ・こだわりの店がこだわりの店や営みを紹介し合うなどの「こだわりネットワーク」づくり

（3）人の確保

- ① 地域のセイフティネットとし、地域を守る「里守（さともり：防人より発想）」の配置（自治振興区の拠点施設への行政職員の配置：カギを開けなくても立ち寄れる施設の確保・地域ニーズの把握・パソコンで仕事するのなら、本庁にいなくてもいいのでは...。最後の鍵がかからない施設の「寺」にも鍵がかけられている...）
- ② 地域の空家や幽霊屋敷化している公共施設への「Ｉターン者」の確保（笑売・小売を認める必要あり）
- ③ がんばる人や営み、地域の誇りや輝きを創る「志民（人や社会のために持てるものを持って喜んで貢献しようとする人）」によるNPO法人づくり支援（「抱きしめて笑湖ハイツカ」は、そのためのリーディングプロジェクトとして位置づけると参画する人たちが多くなるものと考えられる）
- ④ ③の営みをバネに、地域ビジネスや問題解決ビジネスを展開する企業支援（意思決定が遅く、責任がとりにくい自治振興区などでの経済活動は無理と思われる）
- ⑤ 各家庭による「後継者」を確保する営みの応援（新しい助け合いシステムの構築が不可欠＝第二の脂肪届け：メタボに悩む人が自転車やランニングで一人暮らしの家庭などを周り、その実績で自治振興区などが地域通貨などを出すなど、何らかの評価をする）
- ⑥ 「こだわりの人（アーティストや職人・半農半Xの若者）」の確保と支援（この人たちの多くは、田舎の物差しでは「変人」であり、地域の人たちとつなぐ役割が必要。また、入ってきた人を核にして、芋づる方式でのＩターン者確保が効率的と思われる：NPO法人の役割か...）

4. むすび

このビジョンの提案には、膨大な予算が伴うものもあり、また、住民それぞれの価値観の違いもあり、われわれの努力だけでは無理と思われるものもある。

「絵に描いた餅」にするかしないかは、財源的には、国や両市の姿勢に関わる面が少なくないが、われわれも出来ることをやり、国や両市に働き続けることを止めなければ、具現の可能性は“0”ではないと信じている。

また、「自分の生活が精一杯で他所のことどころではない」という思いは、各自、各家庭、各地域にもあるが、「みんなでよくなるための努力」を放棄すれば、里山暮らしの良さは半減し、この提案の具現率も低下するものと思われる。関係者が、点検し合うことも含め、連携して、計画具現にあたることを確認し合いたい。

■ 備考 ■

この提案の(案)は、9月の連絡協議会の協議を受け、各自治振興区長さんなどに個別に意見を聞いて作成した案を、11月開催の連絡協議会で決定したものである。

ハイヅカ湖地域ビジョン推進委員会 委員構成

敬称略

○ 中越 信和	有識者	広島大学国際環境協力プロジェクト研究センター長 教授
立石 雅哉	ダム周辺自治会	仁賀振興会 会長
多留 正弘	ダム周辺自治会	安田自治振興会 会長
今井 秀明	ダム周辺自治会	のぞみが丘運営協議会 会長
和田 芳治	ダム周辺自治会	木屋地区自治振興区 区長
山根 京司	ダム周辺自治会	稲草西自治振興区 区長
前川 俊清	教育	県立広島大学 生命環境学部 准教授
金沢 成三	自然・教育	比婆科学教育振興会 会長
岩水 正志	自然	灰塚ダム知和ウェットランド フレントリ館 館長
熊原 保	福祉	社会福祉法人総領福祉会 理事長
湧田 法恵	行政機関	三次市 三良坂支所長
久保田 隆義	行政機関	三次市 吉舎支所長
永田 修治	行政機関	庄原市 総領支所長
西村 元次	行政機関	国土交通省 中国地方整備局 三次河川国道事務所 所長

○委員長

ハイヅカ湖地域ビジョン分科会 構成

分科会	テーマ
第1・4分科会	豊かな暮らしと文化・芸術 生き活きとした豊かな暮らし、趣味や文化・芸術等の共有ネットワークなどについて
第2分科会	自然との共生 ハイヅカ湖周辺の自然や里山環境と人との関わりなどについて
第3分科会	地域活性化 兼業農家の活性化、特産品や地域ブランド作り、イベント企画などについて
第5分科会	健康・福祉 ハイヅカ湖周辺施設等を利用した健康増進・福祉・スポーツなどについて
第6分科会	ウェットランドと環境教育 ウェットランドの環境保全と、ウェットランドを活用した環境教育や体験学習などについて

※地域の方々や関心のある有志の自由参加で、分科会を開催しています。分科会はどなたでも参加できます。

ハイツカ湖地域ビジョン

笑湖(エコ)ハイツカ

～人と自然が元気で笑顔があふれる湖域づくり～

平成21年3月

©2009 Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

ハイツカ湖地域ビジョン事務局

(国土交通省 三次河川国道事務所 灰塚ダム管理支所内)

〒729-4302 広島県三次市三良坂町仁賀1575

Phone.0824-44-4360 Fax.0824-44-3544

ハイツカ湖地域ビジョンWEB <http://www.haizuka.net>

